自然教室だより
秋の奈良公園・自然観察会報告

辻本 信一

10 月行事として予定されていた秋の奈良公園・自然観察会は雨天により、11 月８日（月）に延期され実施されました。とはいえ１週間前までは大荒れの予報にハラハラ・ドキドキでしたが、皆さまの熱意にほだされたのか天気予報の雨マークも前日にはどこへやら、無事開催されることになりました。当日の参加者は 15 名。

定刻の９時ちょうど、年内最後となる田代貢先生のご案内による観察会のはじまりです。いつもながら解説用の資料もたくさんお持ちいた

だき、今回、参加者に配布された資料だけでもA4、B4 それぞれ２頁と盛りだくさん。近鉄奈良駅では、電車が地上を走っていた当時の写真もご披露頂きました。その後、東向き商店街中ほどより興福寺境内へ。急坂の途中にオシロイバナの黒い実と赤い花。実と言っても雌しべの子房からなる真果ではなく、ガクが変化した偽果。この辺は解説の絵と実物を見比べ納得。

参加者のオシロイバナの受粉を手助けする昆虫はとの質問に関しては、アベリア同様、外

来種に傾向がみられる（受粉を手助けする）ポリネーター不明の植物の一つとの答え。行き成りの高等な遣り取りに田代先生の意気込みが感じられ、思わず耳をそばだたせる参加者一同。

坂を上り切った北円堂の南側では、松の枝についた葉に注目。見慣れた針形の葉とは別に一般的なかたちの葉。正体は他の植物に寄生している植物ながら、緑色をした自分でも光合成をおこなう半寄生（⇔全寄生）のヤドリギ、マツグミ。

野鳥のヒレンジャクなどがヤドリギの実を好み食すが、そのあとで種を含んだ粘り気のあるフンをするので、枝にとまる際には他の鳥に迷惑をかけない様（？）横並びにとまるとか。

本日は他にもヒノキの様な葉をしたヒノキ

バヤドギリやオオバヤドリギも観察しました。

次に先生の足が止まったのは青々とした葉をつけたスダジイの前。皆さん、落葉時期の前常緑樹の判定はどのようにしますか？　との質問。植物は形（痕跡）を残しながら生きている。例えば、冬芽の芽鱗痕（がりんこん）。今年の枝の下には芽鱗痕が残り、その下は去年の枝と言うことになる。そこに葉が無ければ落葉樹、あれば常緑樹の見分けがつきます。この様にして夏場でも常緑樹かどうかの判定は可能です。（なるほど、納得）

今回の報告では、参加できなかった皆さまにも観察会の充実した中身を知って頂くため、紙面が足らないことを承知で、スタート時点からご講義いただいた内容をつぶさに網羅致しましたが、これでも時間にすれば約 30 分。この後にも配布資料以外の説明も入り項目的には 40 項目ほどになったでしょうか。途中休憩時間の分を多少延長し、12 時２０分前後にお開きとなりました。

今回の報告記事で観察会当日のお話内容全部に興味を持たれた方、もっと知りたいと思われた方、ご希望の方には当日の配布資料をお渡ししますので、辻本までご連絡ください。次回は、皆さまの目と耳で、是非とも、田代先生の説明と自然の魅力を堪能してください。